

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予察特殊報第1号について

このことについて、本県でイチジクモザイク病の初発生を確認したので、特殊報を発表し、送付します。

特殊報第1号

- 1 作物名 イチジク
- 2 病虫害名 イチジクモザイク病
- 3 病原ウイルス名 fig mosaic virus (イチジクモザイクウイルス「仮称」)
- 4 発生確認の経緯
平成23年4月に行橋市の加温ハウス栽培イチジク(品種:蓬萊柿)で、葉が退緑・奇形症状を呈するとともに、枝の節間が詰まり、果実に凸凹を生じる症状が確認された。
発生ほ場は1ヶ所で、樹齢13~14年生の1樹のみの発生であった。
東京大学植物病院に診断を依頼した結果、イチジクモザイクウイルス(仮称)が検出された(本県では初発生である)。
- 5 病徴
葉では葉脈に沿った著しい退緑・奇形症状(図1)やモザイク症状が現れる。枝では節間の短縮(図2)や未着果枝の発生が、また、果実では斑紋が見られることがある。
なお、症状は樹全体で見られる場合もあれば、同じ樹であっても主枝単位で見られる場合もある。
- 6 伝染経路
感染した親株を用いた挿し木等による栄養繁殖によって、伝染すると考えられている。また、海外ではイチジクモンサビダニにより伝搬するという報告がある。
なお、接触伝染、土壌伝染はしないと考えられている。
- 7 宿主植物
イチジク(現時点では他の宿主植物は報告されていない)
- 8 防除対策
(1) 健全苗を使用する。
(2) イチジクモンサビダニの薬剤防除を行う。



図1 退緑・奇形症状を呈した葉

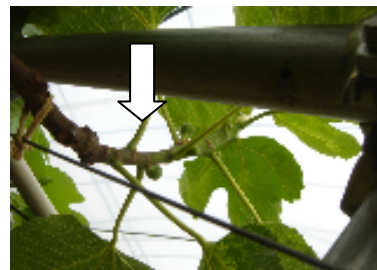


図2 節間が詰まった枝

<病虫害防除所行橋支所撮影>

